

## 水稻 穂もち病防除について

奈良県農業協同組合

お盆も過ぎ、本来なら残暑の厳しい時期にもかかわらず、本年は降雨日も多く夜温の低い日が続きます。奈良県病害虫防除所より、8月17日の巡回調査の結果、中山間地域で穂もち病の多発している圃場が確認されました。今後の天気しだいでは、平坦地域でも発生が懸念されます。

出穂前の粒剤散布か、出穂後2～3週間の液剤散布の効果が高く、防除薬剤をまとめましたので、参考のうえ対応をお願いします。



葉もち



葉もち 病斑



穂もち

### 1) 今後の対応

中山間地域：出穂後2～3週間の液剤散布の効果が高い。

平坦地域：収穫が10月5日以降であれば、8月末までにイモチエースを含有する粒剤での防除が可能。出穂後は、液剤散布の効果が高い。

### 2) 防除薬剤

防除薬剤名	使用量(10a当り)・使用回数	使用時期・使用回数	規格	農家渡し価格(円)税込み	備考
イモチエーススタークル粒剤	3kg	収穫35日前まで1回	3kg	5,610	カメムシ類・ウンカ類同時防除
ブラシンフロアブル	1,000倍	収穫7日前まで2回	500ml	2,574	穂もち病防除では、出穂直後～穂揃期が効果的です

※いもち病には治療効果の高い薬剤はなく、予防剤になります。

(令和3年8月20日作成)